

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2009年9月1日

72号

皆さんの支援と協力を心から感謝します！
第九回 国際協力青年奉仕隊出発しました。
8月25日-9月10日



ディアナのインディヒナ村の学校の敷地内と
学校前の村の主要道路に沿って植樹をする計画

青年奉仕隊予定。

- 8月25日 日本出発
8月26日 アスンシオン到着（17:10 JJ8031）到着後、ホテルへ。（準備と夕食）
8月27日 7時 ロマプラタへ出発 昼から、ロマプラタの案内。
8月28日 7時 レダへ向けて出発。
3台の4輪駆動車を準備しております。（道が今年は悪い為）
3時レダ到着予定。 レダの簡単な案内。
8月29日 9月1日 ディアナにて植樹活動並びに文化交流。（南米の青年合流）
9月1日 ディアナからレダへ戻る。レダの紹介
9月2日 レダで一日過す。
9月3日 飛行機でレダからアスンシオンへ。（飛行機 24人乗り）
昼頃アスンシオンへ着き、バスでシウダデルエステ市へ。
9月4日 シウダデルエステ市で植樹。
9月5日 イグアスの滝見学（アルゼンチン側）
9月6日 シウダデルエステからアスンシオンへ向かう。
9月7日 アスンシオンにて（新聞社訪問、ショッピング）
9月8日 パラグアイを出発。（AM10:50 JJ8030）10日 成田到着

エステ市では市内の50の学校に各100本の植樹を現地の学生とともに行います。市長も参加し9月4日を市の植樹の日として宣言することになっています。

パンタナールにおける植樹活動報告1
(地球の沙漠化、温暖化に対応しての緑化活動)

一〇〇九年・八・十一 飯野貞夫記

一〇〇一年四月から、藪地、荒地が開拓され、二百m×二百mの第一植樹園の一部二百m×二百mの敷地がまず準備され、三千本からの植樹活動が本格的に始まつた。

当初、苗木は首都のアスンションで購入し、飛行機または船で数日かけて運んでくるという経費及び手間のかることではあつたが、この地でまだ苗木を育てるノウハウを把握していないため、どのような木がこの地に合うのか全く未知数であつたため、初めは根付くか、育つか分からぬまま、不毛の地を緑化したいという一念のみの実験から始まつた。



造園の準備の中で、調べれば調べるほど土質の問題が明確になつてきた。パンタナールの土の多くは粘土質で、乾燥すれば力チン力チンに固まり、雨が降ればドロドロの泥砂になつて流れ、木々は根を深く張ることが出来ない。

そこで造園に当たり藪を切り開いて燃やした灰に比較的良好な土や腐葉土を見つけて運んで混せたり、後には炭を作つて粉にして使用したり、無尽蔵に流れ着く水草を引き上げ細かく裁断して堆肥を作り、施肥をして整備をしていったのは画期的であった。

後で書物を調べると、古代にパンタナールに栄えた幻の帝国があり、そこでは既に水草を肥料として農耕をしていたことが分かり、長い歴史を超えての一致に、感動を覚えたものである。

パンタナールは、かつて海底だつたこともあり、塩分を含んだ土質で、草も生えないところは決まって白く塩気が浮き上がつて見ることができる。数年たつて立派に成長した木が突然枯れることがあるのも、根が塩を多く含んだ層に当たり起る現象であることが分かつた。チバトやマンゴーを多く植えたが、これらはこの地域には、全く原生はしていない。ピンクや白、黄色の美しい花を咲かせるイッペーの木(ラパー・チヨ)は時折発見することが出来る。

大きく育つ木々の多くは、水が上がつて来るとこは、やしの木(パルマ)、ティンボ、アルガロボが殆どで、後は藪のように密集した二、三m位まで育つ雑木である。川は藪のよう位まで育つ雑木である。川の水位が上がつても比較的の水位が上がつても比較的が来ないところで塩分が少なければ、森となり主に、ケブ・ラツチヨウの木やパルサント、ボラチヨウなどが、棘のある雑木、雑草と共にジャングルを作つて、人が入り込むことを拒絶している。

また、乾季には、苗木は数年散水を必要とするため、川の水をポンプでくみ上げ、園内に五十m毎に置かれたドラム缶に給水できるよう本の配管工事をして担当管理者を配置する体制を整えていった。

パンタナールは、かつて海で植樹した為、苗木が閑散として点在し、暑い日日照りに地面が乾燥し易く、生えてきた雑草を刈り取らないようにして、いたが、こうして様々な試行錯誤が数年して混栽を進めるためにも、間に新たな別種苗木を植えていった。こうして様々な試行錯誤が繰り返されながら、第一植樹園は育てられていった。

やはり我々の植樹園は今では整然として、鮮やかな気品のある紫の花を咲かせるジャカランダの木をはじめ、国の花でもあるヤシの木(ラパー・チヨ)は時折発見することが出来る。

パンタナールは、かつて海で植樹した為、苗木が閑散として点在し、暑い日日照りに地面が乾燥し易く、生えてきた雑草を刈り取らないようにして、いたが、こうして様々な試行錯誤が数年して混栽を進めるためにも、間に新たな別種苗木を植えていった。こうして様々な試行錯誤が繰り返されながら、第一植樹園は育てられていった。

やはり我々の植樹園は今では整然として、鮮やかな気品のある紫の花を咲かせるジャカランダの木をはじめ、国の花でもあるヤシの木(ラパー・チヨ)は時折発見することが出来る。

パンタナールは、かつて海で植樹した為、苗木が閑散として点在し、暑い日日照りに地面が乾燥し易く、生えてきた雑草を刈り取らないようにして、いたが、こうして様々な試行錯誤が数年して混栽を進めるためにも、間に新たな別種苗木を植えていった。こうして様々な試行錯誤が繰り返されながら、第一植樹園は育てられていった。

パンタナールは、かつて海で植樹した為、苗木が閑散として点在し、暑い日日照りに地面が乾燥し易く、生えてきた雑草を刈り取らないようにして、いたが、こうして様々な試行錯誤が数年して混栽を進めるためにも、間に新たな別種苗木を植えていた。

こうした植樹活動は、今では単にレダだけで行われているのではなく、州都オリエンポでも、

エスペランサ村でも毎年行われている青年ボランティア隊の活動と共に、展開されている。今年はインディヘナのディアナ村

でも行われ、更には肥沃な地、パラグアイ南東部のエステ市でも、五十校からの学生

を動員して五千本の木が植樹される予定で

あり、パラグアイでは、ともすれば掛け声

ばかりの国策としての緑化活動が、これが

刺激と成って大きく具体的に進展していくことになるだろう。（注・下記の文参照）

レダでは、このような植樹園が現在既に、

第二、第三（二一ムの林）、第四（モリンガの林）、第五植樹園（二一ムとモリンガの森）へと拡大れている。これらについて

は次回報告することにする。

【参照文：一九九七年パラグアイにおけるオフィシャルデーターから】

近年、湖沼の汚染、ゴミの投げ捨て、上下水道の不備、野生動物の激減、森林伐採などパラグアイにおける環境破壊は深刻な問題となってきた。

中でも森林破壊の規模は大きく、国土に

対する年間森林消失率は、パラグアイは世界第一位（一・四四%）で、ブラジル（0・二六%）よりはるかに高い。

一九九六年末の現存森林面積は一三五〇千haで、年間伐採面積は一九九五年は一二四千ha、一九九六年は八五千haであり、このままのペースで伐採を続けると、あと十五年間で森林が消滅することになる。

環境保護に関しては国際援助機関や先進国からの圧力で、今まで皆無に等しかった法律による規制が行われ、一九九六年に森林保護・植林法が発効し、開墾面積の一五%を森林としなければならないとし、更に植林経費の七〇%を国庫補助するなど森林保全の積極的な態度を示し始めている。

（注：上記文章によれば、パラグアイの森林伐採は、一九九七年当時、深刻であるにも拘らず、政府は地球環境問題の外圧を受けてかるうじて法律規制をしたり、植林を奨励したりしてきたが、資金がないということもあってか政府自体に本腰を入れる気力が薄く、一般国民に植樹というメンタリティが欠落していることと、現実には蜜伐採による密輸が横行し、なかなか植樹活動は掛け声はあつても進まないできた。

その後も、最近地球温暖化の問題が世界中で叫ばれるようになり、やつと重い腰を上げて取り組み始めている気配が感じられ、我々が起爆剤になればと期待をしている。）



モリンガの林（レダにて）とモリンガの花（上の写真）

シニアボランティアで一年間活躍された大滝氏、本当にご苦労様でした。



お家庭に眠つて
いる未使用の切手、
はがき、印紙など
がありましたら継
続して事務局に送つ
てください。来年の
奉仕隊に用い
ます。

第九回青年奉仕隊も皆さまの温かい支援で
目標の七百万円が集まりました。心から感謝
するとともに、「ご報告申し上げます。
(大滝)



昨年八月パラグ
アイに来てようや
く十二ヶ月目にな
りました。皆様に
支えていただきな
がら元気で無事に
帰国の途につくこ
とが出来ることに
感謝いたしております。

植樹関係を飯野
先生とともにをさ
せていただきました。
(大滝)

デンマークにて活躍される五十嵐氏が
事務局を訪問。南北米支援のために貯め
ていた支援金を持って下さいました。
日本だけでなく、世界各国において活躍
する日本の方々が南北米の趣旨に賛同し
応援して下さっています。



平和大使の集い(6月20日)にて
柴沼事務局長が「パンタナール
の保全と貧困対策:奉仕文化の
構築」と題して講演を行いました。
講演の内容がDVDになってい
ますので関心のある方は事務局
の注文してください。



南北米福地開発協会 事務局

電話 ○四四一八一九一一八二一
FAX ○一七七六八〇四七一
会員納入 溝口二十一一十五
神奈川県川崎市高津区
溝口二十一一十五
岩崎ビル四F

会員納入 一〇一八 ○一七七六八〇四七一
E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>